

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271300267		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里一長泉(ユニット①②合同)		
所在地	静岡県駿東郡長泉町桜堤2-10-10		
自己評価作成日	平成24年1月5日	評価結果市町村受理日	平成24年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2271300267&SC](http://aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2271300267&SC)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年1月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

車通りの少ない閑静な住宅地の中にあり、桜堤の番地名が示すように川沿いの桜並木が臨め、天気さえ良ければ毎日のように、散歩には絶好の遊歩道沿いにある公園まで出掛けております。日常の活動としては食事の手伝いや洗濯物干し、清掃など色々な事をやっていただき、個人個人が役割をもって暮らせるように支援させていただいており、また、ハーモニカボランティアや大正琴の慰問、近隣幼稚園の園児との相互の訪問など、地域との関わりの機会もあります。化粧療法(ビューティーボランティア)を取り入れる等、認知症の方の持てる力を引き出す事を心掛けており、個々での買物や外出にも出来る限り対応し、その人らしく、生き生きと生活していただけるような環境作りのお手伝いを心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コンビニやドラッグストア、スーパーが徒歩2~3分内にあり利便性の高い住宅地に事業所はある。目の前の川沿いには桜並木が拡がり、歩行者専用道路も完備され、利用者には眺めの良い散策ルートとなっている。また、近くでゲードボールを愛好する高齢者や桜堤の散歩帰りの人たちがトイレを借り立ち寄ることもある。常連の人もいて、一種の地域貢献ともなっている。職員はケアの中でも排泄の自立に向けた積極的な取り組みをおこなっていて、特に排便については便秘の期間が続かないように気をつけている。今年度からの新たな取り組みとして、本部において2級ヘルパーの内容を基にテキストを作成して、定期的な講習会を予定している。この取り組みにより、職員のレベルがさらに上がることが期待されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『生き生き生きる』を理念とし、その人らしい生き方が実現できる場を提供できるよう努力している。また、月1回開催される各ユニット会議においても理念の共有化を図っている。	事務所にも掲示していて、現場に具体的に反映することを常に意識して取り組んでいる。例えば、身の回りのことが自分でできるよう、必要以上に手を貸さない「待つ」ケアを心がけている。理念は浸透しているとして、管理者は職員の取り組みを評価している。	できている現状に満足せず、さらに月間目標を位置づけるなど、新たな取り組みを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事は地域運営推進会議の中で区長様に伺い、参加出来る範囲で参加させて頂いている。また、日々の散歩の際には必ず挨拶をするようにして、色々な方とお話出来るように声を掛けさせて頂いている。	老人会の見学を受け入れたり、ビューティボランティアをはじめとするいくつかの定期訪問があるほか、日常的にも散歩途中にトイレを借りに寄る人も少なくなく、開かれた運営をしている。ほかにも、畑を隣近所の人にも使ってもらっていて、採れた西瓜を届けてもらうなど双方向のやりとりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ、福祉教育の受け入れ等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご家族や地区長様、行政を招いて行い、話し合われた事は実践出来る様になっている。地域の行事についても会議の中で話し合い、参加方法等を決めるようしている(福祉健康まつり、地域防災訓練等)	運営推進会議は、日頃の活動を写真や比較データなどで提示し、わかりやすく伝える場としている。町、包括、社協の各職員に参加してもらえ、行政情報やアドバイスなどが運営に役だっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当窓口への書類等の提出は、出来るだけ直接提出したり、地域運営推進会議への参加も積極的にお願している。	運営推進会議の参加も毎回あり、事業所の運営に日頃から協力してもらっている。会議の開催案内は郵送だが、議事録は直接届けるようにして、会話の機会を持つよう心がけている。町の作品展には毎年誘ってもらっていて、利用者の成果品を出展している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が身体拘束にあたるのか、マニュアルを使い職員の理解を得よう努め、月1回開催される各ユニット会議においても折に触れ、話し合っている。	身体拘束ゼロ宣言を更新継続していて、その際にもあらためて職員間で確認し合っている。日中は施設しておらず、フィジカルロックの事例もない。スピーチロックと管理者が気づいた際には、速やかに注意し改善を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議や日々のミニカンファレンスの中で、虐待に当たる行為が無いよう、確認しあっている。プライバシー保護マニュアルを使用し認知症への理解を深める機会を持っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護が必要な方には、関係者との話し合いの場を持ちながら活用できるよう援助を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず契約の内容全てをお話して、十分に理解していただいた上での契約を結ぶようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々で話を伺う機会を設けている。居室で話したり、事務所に直接来られてお話をして下さる方もいる。話の内容によっては全職員への通達を行い直ぐに対応できるようにしている。	運営推進会議の案内は必ず出している。ホームページも立ち上げていて、ブログからも日頃の活動を確認できるよう工夫している。担当者が家族へ手書きの便りを定期で出している、その知らせによって行事にも参加してもらっている。面会が多い家族からは都度要望をもらっていて、努めて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見要望は、常に聞く姿勢をとっており、各ユニット会議及び申し送り時に提案できるよう努めている。	会議での職員意見は活発で、上位者は方向性を示したり、聞き役になり収束することが主な役割となっているほどである。ただし、制度など運営そのものに関する意見は少なく、現場改善や備品購入などについての意見が大半である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価表を使用し評価し、社員表彰式を実施して向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修には積極的に参加してもらうように、事務所内掲示板に掲示してある。また、ホーム内でも随時指導をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の交流会や介護相談会や家族会などに参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面接を行い、十分なアセスメントをとるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様とは別の席を設け、改めてお話を伺うようにしている。 また、そのケースごとの事情に鑑みて、その都度柔軟に対応するようしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談等にて、アセスメントを行いサービス担当者会議を開催し、必要な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりが役割を持って暮らしていけるような環境作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の関係を理解し、立場を認め、その上でより良い関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、馴染みの方が訪ねてきており、懐かしい場所へ出向く事もある。	家族以外の知り合いや親戚の訪問がある。また、訪問に関しては特に時間制限せず、利用者が望めば夜間も対応している。家族も行事に参加してくれたり、外へ連れ出してくれ、協力してくれている。写経など在宅時の趣味を続けている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の様子を見て随時話し合いながら、孤立する事が無いよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要として下さる方とは、相談等などに応じて長くお付き合いをしていけるような関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。困難なときには一緒に行ったりして、自立支援につながるよう努めている。	入居時のアセスメントの際に、生活歴や趣味などを把握している。また、アセスメントは毎月1回更新することにしていて、タイムリーな現状把握に努めている。担当制にしているが、定期的に交替しているため、全体観をもって小さな変化に気づくことができるようになってきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時でのアセスメント等なるべく多くの情報収集を行い、またご家族にもお話を伺うようにしている。 日々の関わりの中で、御本人から得られた情報も、職員間で共有しあっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	書式を設定し、一覧にすることで日々の心身状態を職員全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の各ユニット会議、随時のカンファレンス、日々のケアの中で意見交換を行い、ご家族の要望も取り入れながら介護計画書の作成をしている。	具体的な回数も入れるなど、本人が「できる(=活性化)」という自己有効感が持てるプランづくりを目指している。「機能訓練をしてほしい」という家族からの希望を反映するなど、家族と職員と計画作成者として連携して取り組んでいる。また、プランはいつでも見ることができる場所にあり、職員が立ち返る機会にもなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を残し、情報は常に共有できるようにしている。又、各ユニット会議で介護の方針等を考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や買い物、娯楽等の支援を行なっている。 個別のニーズに関してもケース毎に検討し、必要と思われることを柔軟に提供するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園との交流や、大正琴慰問などの受け入れ等を積極的に行なっている。又、運営推進会議等を通じ、自治会や社協の活動の情報も常に集めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在週1回往診に訪れ、24時間の電話相談にも応じてくれているDrがおり、また、それ以外の治療を希望される方にも受診等応えている。	管理者かケアマネが同行しているため、情報が1本化されている。家族のみで付き添った場合は、必ず直接話を聞き記録化している。いずれも申し送りノートで職員間の情報共有にも努めている。訪問看護の訪問が週1回あり、協力医も24時間電話に応じてくれ、円滑な医療連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1で訪れ介護側と相談しながら入居者の体調の管理を行ない記録に残していく。また、訪問看護師の訪問時、随時採血等行い、往診のDrに直接その結果が届くようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に伺った際など医師との情報交換を行い、ご本人様の体調をみながら早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しつつある入居者への対応は、ご家族やかかりつけの医師と相談しながら、全員で支援している。	医療的措置が必要になった場合には無理であることを家族には理解してもらっている。日常的な医療行為がない場合でも、家族と医師の協力が得られることが前提であり、またケースバイケースであるため、変化があった都度家族と話し合っていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に対応出来るようにマニュアルを作成してある。応急対応等の研修はまだ一部の職員しか受けておらず、今後段階的に行なう予定でいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回の防災訓練を行い、災害時の対応や手順等の訓練を行う。また、地区の防災訓練等にも参加させて頂く予定でいる。	消防署へ届けている訓練を1回、他にも年間2～3回の訓練に取り組んでいる。パン(缶)や水などの食糧のほかに、カセットコンロなど備蓄はあるが、さらに防寒についての購入を検討している。	地域の皆さんに参加してもらえることを目指し、とりあえず運営推進会議または家族会において防災について話し合う機会を設けることを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを個人として尊重し、それ相応の言葉掛けを選ぶよう注意し合っている。 また、プライバシー保護マニュアルを共有し対応策に努めている。	「チャン」づけで呼ぶことはない。名字が同じ場合下の名前前で呼ぶことがあるが、できるだけ名字で呼び掛けるよう指導している。また、申し送りなど利用者の名前がでるような場合は、事務所内で行うことを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で使用される食器類や、入浴後や朝の着替えの洋服など、ご自分で選んで頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを優先して、できるかぎりその人らしい生活を過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人ひとりに対し部屋担当が居り、衣服や内装に関して主となって気を配り、他の職員や御家族にも随時提案する等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど、一人ひとりが可能な事を職員が考えて、声掛けを行い、出来る限り手伝っていただけるような支援を行う。	食事リーダーを決め、メニュー撮影など日々の記録もとり、栄養士に内容についての指導を得ている。職員は主婦経験のある者が多く、家々の家庭の味が楽しめるかと好評である。また、月2回外食することも位置づけ、非日常の楽しさも加えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎食記入して体調の状態が把握できるようにしている。水分摂取量に関しても日報に記入にて情報が共有できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをして口腔ケアを行ない、夕食後は入歯の洗浄・保管や洗口液の使用など、徹底している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを職員が把握して時間で誘導するように心掛けている。パットや紙パンツの使用も可能な限り夜間のみとする努力を行なっている。	日報に記録をとり、特に職員は便秘について気にかけているという。スムーズな排泄はケアの一つの柱になっていて、野菜が豊富でバランスがよくい食事や体操などの側面的な支援が定着している。また、本人の気持ちよさの追求とともに、家族の負担にならない備品についての検討も繰り返し行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のペースを理解して、早めに対応出来るようにしている。また、毎日本体操や散歩の時間を設けたり、バナナ酢を飲んでもらう等、生活の中での工夫も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回以上入浴を基本として声掛け行い、今入るかどうかを本人に決めて貰ってから、なるべくゆっくりと入浴していただけるようにしている。	マンツーマンの介助で、安全を第一としている。時間については、利用者ごとの頻度や健康状態などを勘案して午前、午後と割り振っている。湯は利用者ごとに替え、希望に応じて入浴剤を使用している。浴室内に時計を設置し、ゆっくり入浴できていることが実感できる工夫がみられた。	浴室はきれいに磨きあげられているが、さらに衛生的で気持ちのよい入浴に向け、脱衣所の5Sに取り組むことを期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は色々な手伝いをさせていただき、また身体を動かして夜はゆっくりと休んでいただけるようにしている。入居者様の体調を考慮して、寝たい時間に休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルを作成して、薬情報ははさんである。また、薬の変更時には必ず申し送りノートに記入し、職員全員が読むようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員一人ひとりが趣味や生活歴を理解するために日頃から情報収集行い、楽しいと思えることを勧められるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩外出は出来る限り行い、個別での希望外出等にも対応することが出来るように職員の人員配置に配慮し、買物や理美容室など、定期外出の機会を増やす努力をしている。	本人本位を重んじてはいるが、健康のためにも声掛けを心がけ、散歩などの外出を習慣化させている。体調などの理由から難しい利用者にも、玄関先のベンチでの外気浴を勧めている。年に数回、箱根や静岡市など遠方までドライブに出掛けている。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望者にはご自分でお金を所持し使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の事情が無い限りお好きな時に電話をしていただいたり、手紙を出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は畳の間にコタツがあり、ゆったりと落ち着いている。居間には入居者様の作品や、職員との協同作品などを置いてある。オープンキッチンで食事の支度や匂いなども伝わるようになってきている。	テーブルを分け、ソファが置かれ、畳の部屋には炬燵もあり、それぞれの居場所がつくれるよう工夫されている。1日の中で時間を決めて換気をしていて、加湿器も置かれている。利用者同士での、または職員を介しての会話が弾み、賑やかな雰囲気漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり、畳のスペースを確保することで、個人の席以外にも安全で誰でもが使うことの出来る場所の確保をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前愛用していた物を置いていただいている。また、ご家族との写真やホームでの写真、入居者様の作品を飾るなどして居室内環境への工夫を行っている。	テレビや家族の写真、アクティビティの作品などが置かれ、またベッドの位置や向きもそれぞれで、好みの部屋作りが成されていることを視認した。家族の許可を得て、各室専用の加湿器を購入して、健康面の配慮があることが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽、トイレ、廊下などに手すり等設置し、歩行スペースを広く取る為、配置には気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『生き生き生きる』を理念とし、その人らしい生き方が実現できる場を提供できるよう努力している。また、月1回開催される各ユニット会議においても理念の共有化を図るようにしている。	事務所にも掲示していて、現場に具体的に反映することを常に意識して取り組んでいる。例えば、身の回りのことが自分でできるよう、必要以上に手を貸さない「待つ」ケアを心がけている。理念は浸透しているとして、管理者は職員の取り組みを評価している。	できている現状に満足せず、さらに月間目標を位置づけるなど、新たな取り組みを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設の催し事に、地域の方にも参加して頂いている。 町立北幼稚園との交流 町主催の福祉祭りへの出品、参加。	老人会の見学を受け入れたり、ヒューマンボランティアをはじめとするいくつかの定期訪問があるほか、日常的にも散歩途中にトイレを借りに寄る人も少なくなく、開かれた運営をしている。ほかにも、畑を隣近所の人にも使ってもらっていて、採れた西瓜を届けてもらうなど双方向のやりとりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ、福祉教育の受け入れ等を行っている。 散歩時など、地域の方との挨拶から、会話をするようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご家族や地区長様、行政を招いて行い、話し合われた事は実践出来る様になっている。地域の行事についても会議の中で話し合い、参加方法等を決めるようしている(どんどん焼き、地域防災訓練等)	運営推進会議は、日頃の活動を写真や比較データなどで提示し、わかりやすく伝える場としている。町、包括、社協の各職員に参加してもらえ、行政情報やアドバイスなどが運営に役だっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当窓口への書類等の提出は、出来るだけ直接提出したり、地域運営推進会議への参加も積極的にお願している。	運営推進会議の参加も毎回あり、事業所の運営に日頃から協力してもらっている。会議の開催案内は郵送だが、議事録は直接届けるようにして、会話の機会を持つよう心がけている。町の作品展には毎年誘ってもらっていて、利用者の成果品を出展している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が身体拘束にあたるのか、職員の理解を得るよう努め、月1回開催される各ユニット会議においても折に触れ、話し合っている。昼間は施錠せず、職員見守りにて自由散歩できる。夜間のみ防犯の為施錠。	身体拘束ゼロ宣言を更新継続していて、その際にもあらためて職員間で確認し合っている。日中は施錠しておらず、フィジカルロックの事例もない。スピーチロックと管理者が気づいた際には、速やかに注意し改善を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議や日々のミニカンファレンスの中で、虐待に当たる行為が無いよう、確認しあっている。地域のG・H連絡会等の勉強会にも積極的な参加を促し、認知症高齢者への理解を深める機会を持っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護が必要な方には、その活用法について説明し、援助を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず契約の内容全てをお話して、十分に理解していただいた上での契約を結ぶようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気づきシートを作成している。直接利用者様に要望、困っている事などを聞き取り、担当者会議に提出。御本人の満足度向上に役立っている。	運営推進会議の案内は必ず出している。ホームページも立ち上げていて、ブログからも日頃の活動を確認できるよう工夫している。担当者が家族へ手書きの便りを定期で出していて、その知らせによって行事にも参加してもらっている。面会が多い家族からは都度要望をもらっていて、努めて取り組んでいる	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議の中で行ったり、申し送り時にも提案できる様にしている。	会議での職員意見は活発で、上位者は方向性を示したり、聞き役になり収束することが主な役割となっているほどである。ただし、制度など運営そのものに関する意見は少なく、現場改善や備品購入などについての意見が大半である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パートから常勤職員へ移る際の評価方法や昇給の基準等、現在明確なものを作成中である。 職員満足度向上委員会を立ち上げ、アンケート等で意見をまとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修には積極的に参加してもらうように、事務所内掲示板に掲示してある。また、ホーム内でも随時指導をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の交流会や介護相談会や家族会などに参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面接を行い、十分なアセスメントをとるようにしている。入居後すぐは、なれない事も多くあるため、会話する時間を充分にとり、不安感を取り除けるよう傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様とは別の席を設け、改めてお話を伺うようにしている。 また、そのケースごとの事情に鑑みて、その都度柔軟に対応するようしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話をよく聞き状況を把握し、居宅支援事業者、または利用中の福祉サービスとも連携を取りながらの対応を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生きがいのある生活の為、一人ひとりが残存能力を活かし、役割を持って暮らしていけるような環境作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の関係を理解し、立場を認め、その上でより良い関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、馴染みの方が訪ねてきており、懐かしい場所へ出向く事もある。	家族以外の知り合いや親戚の訪問がある。また、訪問に関しては特に時間制限せず、利用者が望めば夜間も対応している。家族も行事に参加してくれたり、外へ連れ出してくれ、協力してくれている。写経など在宅時の趣味を続けている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の様子を見て随時話し合いながら、孤立する事が無いよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要として下さる方とは、長くお付き合いをして頂けるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。 利用者様、一人一人にあった話し方を心掛けるようにしている。	入居時のアセスメントの際に、生活歴や趣味などを把握している。また、アセスメントは毎月1回更新することにしていて、タイムリーな現状把握に努めている。担当制にしているが、定期的に変替しているため、全体観をもって小さな変化に気づくことができるようになってきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族の面会時などには、出来る限り会話をし、自宅での生活時の様子、好みの物など、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの方、それぞれの生活パターンを観察し、レクリエーションや生活リハビリなどを通して、精神的、肉体的能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の各ユニット会議、随時のカンファレンス、日々のケアの中で意見交換を行い、ご家族の要望も取り入れながら介護計画書の作成をしている。	具体的な回数も入れるなど、本人が「できる(=活性化)」という自己有効感が持てるプランづくりを目指している。「機能訓練をしてほしい」という家族からの希望を反映するなど、家族と職員と計画作成者として連携して取り組んでいる。また、プランはいつでも見ることができる場所にあり、職員が立ち返る機会にもなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活日誌、経過記録等の記入を行ない、朝・晩の申し送り、連絡ノートの記入、確認にて情報の共有を行なう事で、より良い介護ができる様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や買い物、娯楽等の支援を行なっている。 個別のニーズについてもケース毎に検討し、必要と思われることを柔軟に提供しよう努めている。(競艇場への同行等行なっている)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園との交流や、中学生等の福祉教育の受け入れ等積極的に行なっている。又、運営推進会議等を通じ、自治会や社協の活動の情報も常に集めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在週1回往診に訪れ、24時間の電話相談にも応じてくれるDrがおり、日々の体調の変化を報告、処方薬の管理等を行う。また、それ以外の治療を希望される方にも受診等応えている。	管理者がケアマネが同行しているため、情報が1本化されている。家族のみで付き添った場合は、必ず直接話を聞き記録化している。いずれも申し送りノートで職員間の情報共有にも努めている。訪問看護の訪問が週1回あり、協力医も24時間電話に応じてくれ、円滑な医療連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1で訪れ介護側と相談しながら入居者の体調の管理を行ない記録に残していく。また、訪問看護師の訪問時、随時採血等を行い、往診のDrに直接その結果が届くようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に伺った際など医師との情報交換を行い、ご本人様の体調をみながら早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しつつある入居者への対応は、ご家族やかかりつけの医師と相談しながら、全員で支援している。	医療的措置が必要になった場合には無理であることを家族には理解してもらっている。日常的な医療行為がない場合でも、家族と医師の協力が得られることが前提であり、またケースバイケースであるため、変化があった都度家族と話し合っていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に対応出来るようにマニュアルを作成してある。応急対応等の研修はまだ一部の職員しか受けておらず、今後段階的に行なう予定でいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回の防災訓練を行い、災害時の対応や手順等の訓練を行う。また、地区の防災訓練等にも参加させて頂く予定でいる。	消防署へ届けている訓練を1回、他にも年間2～3回の訓練に取り組んでいる。パン(缶)や水などの食糧のほかに、カセットコンロなど備蓄はあるが、さらに防寒についての購入を検討している。	地域の皆さんに参加してもらえることを目指し、とりえず運営推進会議または家族会において防災について話し合う機会を設けることを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを個人として尊重し、それ相応の言葉掛けを選ぶよう注意合っている。「ありがとうございます」「助かります」「すみません」「お世話様です」などの言葉を、職員が言うようにしている。	「チャン」づけで呼ぶことはない。名字が同じ場合下の名前前で呼ぶことがあるが、できるだけ名字で呼び掛けるよう指導している。また、申し送りなど利用者の名前がでるような場合は、事務所内で行うことを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で使用される食器類や、入浴後や朝の着替えの洋服など、できるだけご自分で選んで頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩の時間以外でも外に出たい方には対応したり、出来る限り個別の対応が出来る様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人ひとりに対し部屋担当が居り、衣服や内装に関して主となって気を配り、他の職員や御家族にも随時提案する等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎ、野菜の皮剥きや食器の片付けなど、一人ひとりが可能な事を職員が考えて、声掛けを行い、出来る限り手伝っていただけるような支援を行う。	食事リーダーを決め、メニュー撮影など日々の記録もとり、栄養士に内容についての指導を得ている。職員は主婦経験のある者が多く、家々の家庭の味が楽しめるかと好評である。また、月2回外食することも位置づけ、非日常の楽しさも加えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食材の買い物に行き、新鮮でバランスの良い食事の提供に心掛けている。食事の摂取量を毎食記入して、体調の状態が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをして口腔ケアを行ない、夕食後は入歯の洗浄・保管や洗口液の使用など、徹底している。必要に応じて、歯科受診も行う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを職員が把握して時間で誘導するように心掛けている。パットや紙パンツの使用も可能な限り夜間のみとする努力を行っている。	日報に記録をとり、特に職員は便秘について気にかけているという。スムーズな排泄はケアの一つの柱になっていて、野菜が豊富でバランスがよくい食事や体操などの側面的な支援が定着している。また、本人の気持ちよさの追求とともに、家族の負担にならない備品についての検討も繰り返し行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のペースを理解して、早めに対応出来るようにしている。また、毎日体操や散歩の時間を設けたり、バナナ酢を飲んでもらう等、生活の中での工夫も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回以上の入浴を基本として声掛けを行い、今入るかどうかを本人に決めて貰ってから、なるべくゆっくりと入浴していただけるようにしている。	マンツーマンの介助で、安全を第一としている。時間については、利用者ごとの頻度や健康状態などを勘案して午前、午後と割り振っている。湯は利用者ごとに替え、希望に応じて入浴剤を使用している。浴室内に時計を設置し、ゆっくり入浴できていることが実感できる工夫がみられた。	浴室はきれいに磨きあげられているが、さらに衛生的で気持ちのよい入浴に向け、脱衣所の5Sに取り組むことを期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は色々な手伝いをしていただき、また身体を動かして夜はゆっくりと休んでいただけるようにしている。睡眠を強要せずに、寝たい時間に休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルを作成して、薬情報はさんである。また、薬の変更時には必ず申し送りノートに記入し、職員全員が読むようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員一人ひとりが趣味や生活歴を理解するために日頃から情報収集を行い、楽しいと思えることを勧められるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日の30分ほどの散歩外出は出来る限り行い、個別での希望外出等にも対応することが出来るように職員の人員配置に配慮し、買物や理美容室など、定期外出の機会を増やす努力をしている。	本人本位を重んじてはいるが、健康のためにも声掛けを心がけ、散歩などの外出を習慣化させている。体調などの理由から難しい利用者にも、玄関先のベンチでの外気浴を勧めている。年に数回、箱根や静岡市など遠方までドライブに出掛けている。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望者にはご自分でお金を所持し使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の事情が無い限りお好きな時に電話をしていただいたり、手紙を出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は畳の間にコタツがあり、ゆったりと落ち着いている。居間には入居者様の作品や、職員との協同作品などを置いてある。オープンキッチンで食事の支度や匂いなども伝わるようになってきている。	テーブルを分け、ソファが置かれ、畳の部屋には炬燵もあり、それぞれの居場所がつくれるよう工夫されている。1日の中で時間を決めて換気をしていて、加湿器も置かれている。利用者同士での、または職員を介しての会話が弾み、賑やかな雰囲気漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時間は、利用者の席順を決めず、気の合う方同士が、好きな場所に座れるようにしている。リビングのソファや畳スペースの活用もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前愛用していた物を置いていただいている。また、ご家族との写真やホームでの写真、入居者様の作品を飾るなどして居室内環境への工夫を行っている。	テレビや家族の写真、アクティビティの作品などが置かれ、またベッドの位置や向きもそれぞれで、好みの部屋作りが成されていることを視認した。家族の許可を得て、各室専用の加湿器を購入していて、健康面の配慮があることが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽、トイレ、廊下などに手すり等設置し、歩行スペースを広く取る為、配置には気を付けている。		